Vol.14
2023.1

新潟産業大学

地域連携活動を止めるな!!

産大生と地域のかけ橋

ローカレッジ

Local × College

3年ぶりの開催！
柏崎の大イベント **えんま市**

産大生が活躍！ 2022 夏のイベント特集

和っしょい！じょんのび夏祭り
まちから夏祭り

産学金連携による
商品開発・ＰＲ動画制作
あんこジャム・マリブカフェ・蒔絵コースター

まちかど研究室 産大企画
柏崎ホビー駅伝
ポケカ / 組紐 / プラモ / クイリング

産大放送部 絶賛♪活動中！

かしわざき市民活動センターまちから Like work Scool
「地域理解ゼミナール」柏崎が誇る長寿企業の実態

この冊子は新潟産業大学経済学部学生が制作しました

えんま市

3年ぶりのえんま市に産大生が出店！

令和4年6月14日～16日、新型コロナウイルスの影響で2年間中止となっていた柏崎の一大イベント「えんま市」が、3年ぶりに開催されました。感染症対策として、食べ歩きの禁止、アルコールの提供禁止等の規制がありましたが、のべ28万人という過去10年間で最も多くの方が来場し、地域は祭一色となった3日間でした。

本学では19名の学生が、柏崎観光協会が中心となって地元の飲食店等が出店する「柏崎うまいもん市」のエリアに出店しました。ブースでは柏崎市内の企業と大学生のコラボ商品を販売しました。あんこジャムのPR動画を常に流し、着ぐるみを着た学生たちが、興味を持ってくださった方に商品を詳しく説明する様子が見受けられました。

他にも子ども向けに、駄菓子コーナーも設置しました。様々な駄菓子や、お菓子が当たる糸引きくじを用意し、よりお祭りらしい雰囲気のブースにしました。特に糸引きくじは盛況で、3日間、毎日絶えずお客さんに来ていただき、地域の方々に我々の活動を知っていただけるイベントになりました。

たくさんの人が遊びに来てくれました！

地域の方のみならず、大学関係者にも足を運んでいただきました。他のゼミ生や教職員のみなさまに加え、OBの方にも私たちの活動を実際に見ていただけました。昨年度から一緒に活動をしている新潟大学のみなさんにも遠方から駆けつけていただきました。また、今まで交流を持った地域の方にもお越しいただき、私たちの活動による地域との縁を再確認しました。

えんま市の紹介動画を制作！チェックしてください！

本学２年生が「地域理解ゼミナール」で制作したえんま市の紹介動画です！

◀▼ YouTube チャンネル
NSU 権田ゼミナール
「えんま市へ GO
～今年は終了しています～」

えんま市についてはこちらも併せてご覧ください！

▲ 柏崎市 HP
「えんま市」

えんま市とは？

「えんま市」とは、２００年を超す歴史があり、新潟三大高市（たかまち）のひとつに挙げられる、柏崎を代表するお祭りです。毎年６月14日、15日、16日の３日間で行われます。閻魔堂のある本町通りを中心に数キロメートルにわたって５００以上の露店が立ち並びます。

文・デザイン：後藤 麗玖・狩野 泰輔

COLLABO ①

新潟産業大学×いろはや製餡所

あんこジャムPR

新潟産業大学×柏崎信用金庫
産学金連携による商品開発・PR動画制作

柏崎市内の菓子店へのあんこの卸しや和菓子の製造をしている「いろはや製餡所」の誇る「あんこジャム」。うまい！塗りやすい！アレンジしやすい！新感覚あんこのＰＲ動画制作に柏崎信用金庫を通じて取り掛かり早１年。前回紹介した予告編に続き、ＰＲ動画本編が完成しました！！

柏崎信用金庫を通じた産学金連携プロジェクトの一つとして手がけた「いろはや製餡所」の「あんこジャム」PR。5月に試食会、7月に試作会と撮影テスト、10月には対決動画の撮影を行い、前号の『ローカレッジ』では、動画制作に励む姿を紹介しました。約1年が経過し、これまでに「マッハDEチャージ編」「大人のアレンジ編」「対決編」「親子でパフェづくり編」「おしゃれな癒し編」の計5本のPR動画を制作しました。

完成した動画は「NSU権田ゼミナール」のYouTubeチャンネルで公開しています！

▲大人アレンジ「おぐラスク」（小倉あんこジャム＋ラスク）

これが完成した動画だ！

マッハDEチャージ編

運動から帰って来たら、おなかが減って糖分不足…
そんな時は速攻あんこジャム牛乳チャージ!!
うん！美味しい！

大人アレンジ編

ちょっぴりディープな大人アレンジ…マフィンやラスク、クラッカーなどアレンジは無限大！！
うーん～あんジャム。

対決編

因縁のあんこジャム対決。赤コーナーみそあんジャムのマフィン！青コーナー小倉あんジャムトースト！おいしい戦いの火ぶたが今…斬って落とされる！

親子でパフェづくり編

家族で楽しく！あんこジャムパフェづくり！おやつに作れば子どもの気分も上がり、家族との絆も深まります！是非お試しあれ！

そして・・・

最新作は私たちが主役よ♥

NEXT!
おしゃれな癒し編

COLLABO ③ 平田表具店（平雅堂）

蒔絵コースター

～新キャラクター紹介と販売活動～

平田表具店は、江戸唐紙の技法を用いて、すべて手作業で装飾和紙やふすま、屏風を制作しています。蒔絵コースターは唐紙技法のひとつ、金銀砂子細工をペーパーコースターに施した唯一無二の作品です。今回、「沢山の人の手に取ってもらいたい」「商品の魅力を伝えたい」という思いから、産大生が柏崎をイメージしたキャラクターを用いたパッケージデザインに取り組みました。

新キャラクター紹介

ぎおん柏崎まつり 海の大花火大会 × 大花煌里（おおはなきらり）

あたしの名前は大花煌里。
職業は花火師。
毎年７月26日に柏崎の海で大きな花火を打ち上げるんだ。
あたしが丹精こめて作った花火見てくれよ。

萩ノ島「雪景色」 × 萩島雪希（おぎしまゆき）

茅葺きの家に住んでいる萩島雪希です。
僕は萩ノ島の雪景色を皆さんにおすすめします。
友達とお酒を飲みながら楽しむこともできるので今度、行ってみてください。

夢の森公園「カキツバタ」 × 夢乃森詩（ゆめのもりうた）

私の名前は夢乃森詩です。
趣味は和歌を詠むこと。
「君想ふばかりに瞳あざやかに
皐月心もとなく思ふ」
夢の森公園のカキツバタを想い詠んだ詩です。
皆さんも行ってみて下さい！

全７色の販売をはじめました！

柏崎港観光交流センター 夕海

「柏崎港観光交流センター夕海」では、令和３年秋から学生がデザインしたパッケージの蒔絵コースターの販売を始めました。

令和４年の春には新しく金、銀、紫の３色のキャラクターが登場し、７色全てが揃いました。また、権田ゼミ４年の女子メンバーが、蒔絵コースターのディスプレイの様子や評判などについてヒアリングを行いました。

たかだ竹あかり

令和４年９月25日、３年ぶりに柏崎市内の史跡・飯塚邸にて「たかだ竹あかり」が開催され、竹灯籠を用いた庭園のライトアップが行われました。産大生も設営や運営スタッフとしてお手伝いすると同時に、蒔絵コースターの販売も行いました。

蒔絵コースターの緑色のキャラクターは「たけだ竹あかり」がモチーフになっているため、記念に購入されるお客様が多数いらっしゃったことが印象的でした。

飯塚邸「竹あかり」
× 飯塚竹之助（いいづかたけのすけ）

まちから チャレンジデー

「まちから夏祭り」と「まちからハロウィン」では、来場者から好きなキャラクターにシールを貼ってもらう、人気投票を行いました。

一番人気は夏祭りでは、新道柿×新道柿音で、ハロウィンでは、夢の森公園「カキツバタ」×夢乃森詩でした。

大人や子どもといった世代毎に人気が違うことがわかり、蒔絵コースターが一枚一枚違うという魅力も同時に伝えることができました。

1位

新道柿×新道柿音（しんどうしおん）

夏祭り

ハロウィン

COLLABO ② MARIBU CAFE

～若者向けコラボメニュー完成!!～

マリブカフェは西海岸をイメージさせる空間と隠れ家的な雰囲気のカフェとなっています。「若年層の世代の来店を増やしていきたい」「魅力ある店舗づくりをし、若者たちと協力しながら柏崎を盛り上げたい」という店長の思いから、産大生のコラボメニューの開発に昨年から取り組んできました。

▲ 試食会の様子

▼ ヒアリングの様子

前回のローカレッジでは、試食会の様子をお伝えしましたがその後、学生が考えたメニュー案を元にお店の方にヒアリングを行った結果、マリブカフェのスパイシーなカレーを産大生なりにアレンジするという方向性に決まりました。
さらに試食会を重ねた結果、ついに３種のカレーとドリンクがメニューに加わりました。

MARIBU カレー（マリブ風シーフードカレー） 辛さレベル

マリブカフェのイメージにぴったり！

海をイメージしたシーフードを加え、ココナッツミルクでさらに海感を増したマイルドなカレーです。

サバトマカレー 辛さレベル

サバとトマトの相性抜群！

サバにトマトを加え、玉ねぎの甘味でバランスを取った甘辛いカレー。
トマトの酸味でフレッシュさが増し、甘味と辛みが半々のカレーになりました。

キーマカレー 辛さレベル

辛いもの好きにはたまらない逸品

MARIBU CAFE の大人気キーマカレーをアレンジして、ゆで卵をトッピングしました。

MARIBU ブルー

MALIBU CAFE 風ブルーハワイは、アメリカ西海岸の海をイメージした青いドリンク。
カレーと一緒にぜひ！

これは・・・映える！！

カレーは日替わりで登場
今日は何かお楽しみに！

・ランチタイム：11 時～ 14 時半
・夜：17 時～ 22 時（事前予約制）

〒 945-0051
柏崎市東本町 1 丁目 5-23　2F
TEL　0257 － 7209
http:// マリブカフェ .com

▲ 店長の柴野さん

文・デザイン：市橋 舞紀（マリブカフェ）・和田 渚佐（蒔絵コースター）

産大生が活躍！ 2022年

夏のイベント特集

和っしょい！じょんのび夏祭り

▲ イベント２日目の集合写真。当日は多くの産大生が助っ人に来てくれました！

柏崎リーダー塾 × 新潟産業大学

令和4年8月6日、7日に高柳じょんのび村で、「和っしょい！じょんのび夏祭り」が開催されました。このイベントは柏崎市の企業の方々で構成されている、柏崎リーダー塾の「チームしなぷす」と、新潟産業大学の学生4名が共同で開催したイベントです。

若者や子どもをターゲットに、柏崎での思い出になれるようなイベントを目指し、一から企画しました。

当日は、多くの若者や子ども連れの家族で賑わい、初の試みでありながら大盛況のイベントとなりました。

▲ 柏崎リーダー塾「チームしなぷす」の皆さんと参加した学生たち。
「チームしなぷす」会田さん　大塚さん　佐山さん　三宮さん
新潟産業大学　　樋口さん　本間さん　佐藤さん　今村さん

夏祭りができるまで

じょんのび夏祭りは、チームしなぷすと産大生4人の、イベント開催経験のないメンバーが、結成された6月から2ケ月の間でつくり上げるという異例のイベントでした。

簡単に開催にはたどり着けず、企画も難航する中、じょんのび村スタッフをはじめとした多くの方に助けを頂き、コロナ禍でも安全に開催できるよう、一丸となって努力しました。

活動の中でほとんど初対面であったメンバーが、楽しそうにアイデアを出し合う姿が印象に残っています。小さなチームが多くの人を巻き込み開催された夏祭りは、たくさんの参加者の思い出となったとともに、学生にとっても、貴重な経験と学びを得るイベントとなりました。

▲ 上：実行委員会議の様子。
下：２日目縁日の様子。２日目はこども向けのイベントが多く、沢山の子どもたちの声で賑わった。

じょんのび夏祭りの感想と学んだこと

文化経済学科2年 佐藤 凪紗さん

イベントの参加や、スタッフとしての初めてで新鮮な体験でした。全てが予定通りだったとは言えませんでしたが、計画が現実味を帯びる嬉しさ、目的を共有できる誰かと活動できる楽しさを知ることができました。

文化経済学科1年 今村 奈津希さん

今回の夏祭りでたくさんの方と交流することができました。皆さんの楽しむ姿を見て、非日常を楽しむということが大切と知りました。この経験を次に生かしていきたいと思います。

▲ １日目のメインイベントであるスカイランタンの様子。

まちから夏祭り

▲ 販売ブースの様子。当日は販売ブースと体験ブースの２店舗で参加した。

ゼミナールで参加

令和4年7月16日にかしわざき市民活動センターまちからで開催された「まちから夏祭り」に権田ゼミが参加しました。

今回は、地元企業とのコラボ商品である、あんこジャム・ふふ豆・蒔絵コースターの販売や、スライムづくり、ねんどキャンドルづくり、糸引きくじなどの体験コーナーの出店をしました。

あんこジャムやふふ豆の販売では、幅広い年齢の方がお越しくださいました。これらを実際に味わえる試食コーナーも設置し、たくさんの方に好評をいただきました。あんこジャムは越後姫あん、みそあん、こしあん、小倉あん、ルレクチェあん、さくらあんの6種類があり、どの味もたくさんお買い上げいただきました。ふふ豆も非常に人気で、塩味と砂糖味があり、特に塩味が好評でした。

▲ いろはや製餡所さんの「あんこジャム」
平田表具店さんの「蒔絵コースター」
など、ゼミナールの活動の中で関わりのある商品を販売・PR した。

子ども向けの体験コーナー

スライムづくりやねんどキャンドルづくり、糸引きくじは、小さなお子さんに大好評でした。スライムづくりでは、自分の好きな色のスライムを作ることができ、1週間は特有のぷるぷるした感触を楽しめます。ねんどキャンドルづくりでは、パンダやシロクマなどの形のキャンドルを作ることができます。ねんどキャンドルづくりはお子さんだけでなく、若い女性の方にも楽しんでいただけました。お手本を見ながら真剣に作る方や、チンアナゴなど自分でアレンジしたキャンドルを作る方もいて、たくさんの個性的な作品を見ることができました。

糸引きくじは、お子さん達にとても人気でした。くじには「当たり」の景品があり、当たりを狙い真剣に糸を探る姿も多く見られました。

▲ 上：ねんどキャンドルの完成品。
下：糸ひきくじの様子。

蒔絵コースター キャラクター人気投票

権田ゼミでは、平田表具店の蒔絵コースターをPRするためにキャラクターを制作しました。今回は、蒔絵コースターの販売と同時に、各色のキャラクターの人気投票も行われました。今回は人気キャラクタートップ3を紹介します。第1位がオレンジ色、新道柿がモチーフの新道柿音（しんどうしおん）。第2位が青色、日本海がモチーフの浜本海斗（はまもとかいと）。第3位が緑色、飯塚邸「たかだ竹あかり」がモチーフの飯塚竹之助（いいづかたけのすけ）でした。

▲ 人気投票の様子
好きなキャラクターの場所にシールを貼って投票できる。

▲ 第１回人気投票　第１位
新道 柿音
（しんどう しおん）

【まちかど研究室　産大企画】@柏崎エネルギーホール

柏崎ホビー駅伝

新型コロナウイルス流行の影響で、人が集まって何かすることが憚られる風潮にあり、地域の方と交流する機会が少ない状況が続いていました。そこで地域の方と趣味を通じて交流することを目的にしたイベント「柏崎ホビー駅伝」を開催しました。

第一走者　カードゲーム大会 ～BOX争奪戦&交流会～

世間では『ポケモンカードゲーム』が大人から子どもまで幅広い年代で流行しています。新潟県内でもポケモンカードに関する大会やイベントが多く開催されておりその人気が伺えます。

しかし令和4年1月当時、柏崎市内では大会やイベントはあまり開かれていませんでした。

そこで柏崎市内のポケモンカードプレイヤー同士の交流や柏崎でポケモンカード等のカードゲームのイベントを開きやすくすることを目的とした「カードゲーム大会～BOX争奪戦&交流会～」を新潟産業大学のポケモンカードサークルと共同で、1月16日に開催しました。

当日はポケモンカードのBOXや各種サプライ品を賞品とした総当たり戦や初心者の方に向けた初心者講習会、フリー大戦を行い、産大生や他大学の学生、SNSの投稿を見て来られた方などと熱いバトルを繰り広げつつ交流を深めていました。

第一回では様々な課題点が見つかったので、今後開催する際は、第一回で得た経験や改善点をもとにより良いイベントを開きたいと考えています。

▶初心者講習
▲対戦の様子

第二走者　組紐体験

組紐は日本の伝統工芸品です。数年前『君の名は。』で話題になりました。絹糸や綿糸を組み上げて紐にする技術です。様々な模様・組み方があり資格もあるなど、マスターするにはかなり高度な技術が必要になります。本来は専用の代を使用するので、触れる機会がない人が多いと思います。しかし今は、手芸店で購入できるディスクと糸を使用して、かなりお手軽に作れるため、多くの人が手に取りやすくなっています。

私が小さい頃、姉の影響で少しやったことがあり、綺麗に作れたのが嬉しかったことが記憶に強く残っており、多くの人にこの楽しさを共有できたらと思い、組紐体験をコロナウイルス蔓延による延期はありましたが、無事に7月9日に開催しました。

イベント当日、参加者の方には好きな色とビーズを用いて組紐で自分だけのブレスレットを作っていただきました。組紐は資格もある技術なので、苦戦されている方も多かったです。また組紐は組む時の力加減でも完成に差が出るので、均一な力で制作するのは難しかったと思います。ですが、全員がコツコツ頑張った結果、無事全員が完成させることができました。

今回はブレスレットを作りましたが、上達すれば自分の好きな柄で好きなものを作れるので、今回のイベントをきっかけに組紐の世界に興味を持ってもらえたらいいなと思います。私も久しぶりに組紐に触れることができ、とても懐かしく楽しむことができました。

▲ 組紐をしている様子

◀ 第二回積プラ崩し 集合写真

▶ 第一回積プラ崩し 集合写真

第三走者　プラモ制作交流会 ～積みプラを崩そう～

プラモデル業界激震！プラモの安定需要が困難になってしまった時代。そんな『寒い時代』だからこそ、我々はスカスカなおもちゃ売り場よりも自身のタンスや押し入れ、倉庫の中に目を向けた！そう「積みプラ崩し」（購入したが作りかけもしくは未着手のまま放置されたプラモを完成させること）である。

この「積みプラ崩し」をテーマにした「プラモ制作交流会～積みプラを崩そう～」を2月13日に第一回、そして、ご好評につき、第二回を6月5日に開催した。

▲ 積みプラ崩しの様子

会場ではガンプラ、パトレイバー、スパロボ、美少女、艦艇など、作品、ジャンル、制作会社の垣根を超えた様々な積みプラ、そして産大生やそのOB、工科大生、地元のベテランなど、多くのモデラーが集まり、同志と趣味を語り合い、時には道具や技術を共有しながら交流を深め、積みプラを崩した。

第一回、第二回ともに参加した新潟工科大学1年生の吉越怜さんは「いつも一人で作っていたが、同じ趣味を持つ者同士、雑談をしながら作るプラモは、非常に新鮮で楽しいひと時になった」と語った。

第四走者　クイリング体験

▲クイリングの様子

クイリングとは、細長いテープ状の紙を細長い棒状のものでクルクル巻いて、様々なアート模様を作り出すハンドメイド製品です。特別な道具が必要ないので、手軽にできると人気です。またクイリングはフレームに入れて飾ることもできますし、メッセージカードやポストカードなどに飾り付けするなど、様々な作品が作れます。

ゼミナール内でホビー駅伝の話が出たとき、一番初めに思い付いたのが「クイリング」でした。クイリングの道具はお店で見る機会があまりなく、クイリングのことを知らない人も多いと思います。ですが、クイリングは作品の自由度が高く、綺麗で、小さめの作品はサクッとすぐ作れて取っ付きやすいので、多くの人に楽しんでほしいと思っていました。

当日、一度パーツの作り方の説明をした後は、参加者の方々がそれぞれ自由に作品を作っていました。こういったアレンジが簡単にできることもクイリングの魅力の一つだと改めて感じました。このイベントをきっかけにクイリングを多くの人に知って、楽しんでもらいたいです。

文：角田 充宏（カードゲーム）・杉田 有紀奈（組紐 / クイリング）・吉越 耀（プラモ）　デザイン：角田 充宏

～柏崎が誇る長寿企業の実態～

令和４年２月22日に柏崎商工会議所にて「柏崎に関する研究発表会」が開催され、「地域理解ゼミナール」で研究した内容を発表してきました。その内容を紹介します！

発表者：文化経済学科２年
池嶋 菜央　田中 真由
（学年は発表時のものです）

はじめに

日本は創業１００年を超える長寿企業の数が世界一です。その日本で長寿企業の数と出現率（企業に占める比率）の両方が全国トップ５に入る地域は、京都府と新潟県だけです。それだけでもすごい！と思いますが、「町」単位で長寿企業の出現率を見た場合、なんと柏崎市西本町が全国ナンバー１なのです！これは意外に多くの柏崎市民がご存じありません。

さて、

- 最上屋
- ノマタ酒店
- 柏崎日報社

この３社の共通点は何だと思いますか？この３社はいずれも長寿企業であり、店舗（本社）を柏崎市西本町に構えています。この３社の長寿の秘訣は何なのでしょうか？それぞれの企業を取材してきました。

※なお、この調査研究は企業経営分野担当の今村 英明 先生にご指導いただきました。

最上屋

最上屋は、１８７１年に創業した菓子屋で、現在の経営者は吉田勝彦さんです。創業当時の企業名は「藤月堂」でした。最上屋から発祥した「北日本製菓」は、日本を代表する菓子メーカー「ブルボン」の前身です。

中越・中越沖地震や新型コロナウイルスの影響を受け、現在の経営状況は大変だそうです。さらに元々コロナ禍以前から冠婚葬祭にお菓子を購入する人が減ってきていたことも大きいと吉田さんはおっしゃっていました。

そのような状況下でも、お客様から意見をもらい、改善することを心がけているそうです。その例として「柏崎らしい商品が欲しい」というお客様の声を聞き、最上屋名物「鯛サブレ」を考案、販売に至ったそうです。

▲ 最上屋工場見学の様子

ノマタ酒店

ノマタ酒店は、１８６８年に創業した酒屋で、現在の経営者は五十嵐健也さんです。「美味しいお酒を多くの人にお届けしたい」という思いで酒類を販売しています。

以前は中越・中越沖地震の影響を大きく受けたそうですが、特に最近のコロナ禍が経営状況に大きな打撃を与えているそうです。「柏崎市内に限らず、飲食店の活気がなくなっている」と五十嵐さんは語りました。

そのような状況下でも、「地域密着」が大方針です。「柏崎市で商売するには、柏崎市民に選ばれ続けるしかない」ときっぱり言われました。五十嵐さんは弟さんと市内各所の飲食店などを回って、アドバイスしたり意見交換したりして柏崎市の飲食店に活気を取り戻そうと努めています。人口が減減少していても、地域密着を大切に商売し続けていくそうです。

◀▼ 普段見ることのできないお菓子作りの機械を見せてくださいました。

◀お酒の魅力を語りました

▲ 五十嵐さんが一番好きな「緑川」！

柏崎日報社

柏崎日報社は、１９００年に創業した新聞社で、現在の経営者は田中恵子さんです。柏崎市、刈羽村、出雲崎町を主な配達先とし、地域密着型の新聞を発刊しています。

中越沖地震の際は2日間停電していましたが、1日目は休刊、2日目は電気が通っていた向かいの家でパソコンを使わせてもらい、通常の半分の大きさで発刊したそうです。

柏崎刈羽原発ができた頃、事業は順調でしたが、現在は人口減少により購読者が減少。また、新型コロナウイルスが流行した当初は広告やイベント、地域住民の社会活動が減少し、誌面作成が難しかったそうです。

そのような状況下でも、「【地域の方と柏崎を作っていきたい】という思いをこれからも大切に、誠実な誌面作成を心がけていく」と田中さんはおっしゃっていました。

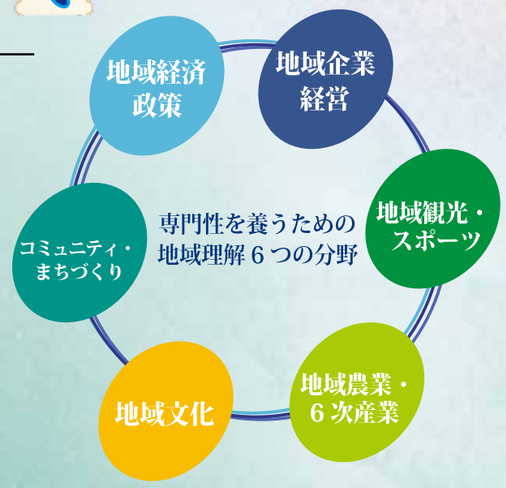
▲ 紙面作りについて丁寧に説明してくださいました。

3社を取材して

これら3社の長寿企業は、柏崎市も大きな被害を受けた中越・中越沖地震により、事業に大きな打撃を受けました。さらに昨今のコロナ禍により、さらに経営状況が悪化していました。長寿企業だからといって、経営が順調だとは限らないということがよくわかる取材でした。

長寿の秘訣をお聞きしたところ、3社とも「地域密着」とおっしゃっていました。柏崎に対する思いがとても強く、感銘を受けました。

▲ 新聞記事を作成している現場



地域に学び、地域をおこす「地域理解ゼミナール」

「地域理解ゼミナール」は1、2年次の専門必修科目で、地域おこしのための6分野を柱として、地域の産業・文化への理解を深めます。

1年次の「地域理解ゼミナールⅠ・Ⅱ」では、「経済経営学科」と「文化経済学科」どちらの学科の学生も共通で、1年かけて6分野をまんべんなく学びます。

2年次の「地域理解ゼミナールⅢ・Ⅳ」では、興味関心に合わせて、春学期、秋学期に各1分野を選択し、地域への理解をより深めます。グループで協力して調査・活動に取り組み、各学期末に合同発表会を開催します。

▲ 他参加者との対話の様子

Like work School

令和３年11月～令和４年３月、第４期となる「Like Work Scool」に権田ゼミからも２名が参加し、第一線で活躍する、柏崎をよく知る先輩たちや経験豊富な仲間たちと話をして、実践的に学んできました。

どんなことを学ぶの？

Like Work Schoolとは、「好きからはじまる、あなたの生き方」と題し、「好き」という思いを探求し対話を重ね、「やりたいこと」へと言語化するセミナーです。オリジナルのテキストを使用し、ライフヒストリーに散りばめられたヒントを拾い集め、あなた（参加者）の大切にしているものや価値観を探る場所です。全6回の講義を経て、自分らしい生き方を見つけて、次のアクションが具体的に見えるようになります。

▲ 参加した学生の会議での様子

▲ 参加した学生の感想

参加したゼミ生の話１

私は自身の趣味であるカードゲームはコミュニケーションツールとして優れていると思い、様々な人たちと交流できるのではないかと考え企画を立てたのですが、他の参加者の方と交流する中で私は特定の趣味だけでなく、様々な趣味で人をつなぐことが出来るのではないかと考え、様々な趣味のイベントを行うという企画を立てました。Like Work schoolに参加し、自分のやりたいことを具体的に案にする方法を専門家の方からも意見を聞け、参加して良かったです。

参加したゼミ生の話２

私は柏崎市を舞台にポケモンカードを使ったプロジェクトを行いたいと思い、Like Work Schoolに参加しました。回を重ねていく中で初心者講習会や対戦会などの誰でも楽しめるイベントがやりたいと私の中で案が固まりました。参加したことで、やりたいことが具体的になることが良かったのはもちろん、私の案や意見を私よりも知識も経験もある参加者の方々に聞いて言葉をもらえることが自分のためになり、参加して良かったと思いました。

成長を感じることが出来る場所

Like Work Schoolでは老若男女問わず色々な思いを持った方が参加していて、各回で先輩方や専門家の方々から話を聞くことができ、自分自身のプランをより明確にしていくことが出来ます。それにより、自分自身の事がよりわかり、自分自身の根底にあるものは何なのか、それをどんなふうに企画に生かすことが出来るのかを丁寧に教えていただけました。そうしてプランニングが出来るようになって、人としても少し成長することが出来たのではないかと思います。

▲プラン発表の様子

▲ 参加した学生の感想

新潟産業大学放送部 WHITE BOARD

ラジオ放送

新潟産業大学放送部のメインの活動として、隔週金曜日19時に「FMピッカラ」でラジオ放送を行っています。

このラジオでは、「産大の情報発信」・「大学生から見た柏崎の魅力」・「大学生活のリアル」など様々な情報の発信を行っています。他にも、「ゲーム」や「質問箱」などリスナー参加型企画なども行っています。

昨年から様々なゲストもお呼びしており、ここでしか聴けないお話が聴けるかもしれません。ぜひ一度お聴きください。

↑柏崎インサツの社長さんをお招きして、お話を聴くことができました。

←ラジオの音量やBGMも学生が操作してます。

高大連携

附属高校の生徒さんに、ゲスト出演してもらっています。緊張しながらもフレッシュにお話ししてくれます。

水球イベント

ラジオ局から飛び出して、実況やアナウンスなどの活動も始めました。新しい形で柏崎を盛り上げていきます！

絶賛♪

産大放送部

活動中！

放送部は、大学生たちが自身の声で地域に「柏崎の魅力」や「新潟産業大学について」発信し、柏崎を盛り上げようと活動している部活動です。
大学生らしさ全開で活動しています。
このページでは、そんな放送部の魅力を紹介します！

放送部の魅力は？

放送部部長
４年の橋本竜平さんに
↓コメントをいただきました。

放送部の魅力は、一時間の番組を自分たちで企画を行えることです。生放送という緊張の中、より良いラジオ放送をおこなえた時には、達成感や自分たちの成長を感じます。

一人でも多くの人に聴いてもらえるよう、頑張ります！

←本番前に打合せしている様子。ここで最終確認して、放送に向かいます。

Twitterやってます！

←産大放送部TwitterのQRコード

放送の裏側や最新情報などなど、随時あげてます！
他にも質問箱や特別企画など、リスナー参加企画へのコメントも、Twitterにて募集中！
ぜひ、チェックしてみてください！

NSU学生広報チーム

ＳＮＳで産大生の学生生活を発信中！！

ぎおん柏崎まつり
海の大花火大会★

全国レベルを誇る水球部
今年も大活躍!!

「地域理解ゼミナール」
発表会は緊張した～

写真部はイングリッシュ
ガーデンで撮影会

就職活動集中対策講座
みんな真剣

ゼミナールで
松雲山荘を散策♪

オープンキャンパスの
スタッフも務めます！

空手道部
北信越入賞おめでとう！

大好評！
教職員紹介シリーズ

follow us!

Twitter

Instagram

★産大生の毎日を学生目線で紹介している「学生広報チーム」。
今年度は第３期メンバーが活動中です！
新たにインスタも開設!!

産大生と地域のかけ橋
ローカレッジ　Vol.14
2023年1月15日 発行

編集・発行責任者
新潟産業大学　経済学部講師
権田 恭子

※この冊子に関するご意見・ご感想を
お寄せ下さい。
今後の参考にさせていただきます。

〒945-1393　柏崎市軽井川 4730 番地
新潟産業大学　地域連携センター
TEL：0257-24-8441
FAX：0257-22-1300
Email：renkei@ada.nsu.ac.jp

マスク生活も３年目を迎えた今年度、すべてが元通りというわけにはいきませんが、「えんま市」をはじめとした地域の祭やイベントが、次々と「３年ぶり」の開催を果たし、少しずつ地域ににぎわい、活気が蘇ってきました。この間、地域での活動再開を待ち焦がれていた学生たちは、精力的に様々な場に出向き、多くの方々と交流を深めることができました。

ＳＮＳや動画制作等を通じたＰＲ活動や、オンライン上での交流会・発表会の実施等など、自分たちにできる活動の場、ふれあいのかたちを探し続け、それらも「新たな日常」として徐々に定着して来ました。その上での、様々な（安全安心の代わりにしばしば手間を増やしてしまう）感染症対策を講じながらの「リアル」なイベントの復活。多忙を極めながらも、これまでの学生生活でやり残したことを取り戻すかのように、果敢に取り組む学生たちの姿が印象的でした。そして、地域の皆様から温かく受け入れ、声をかけていただき、勇気づけられたことは、これからの社会を生き抜く彼らにとって、大きな自信につながり、かけがえのない財産となりました。

今年度も終盤に差し掛かって来ましたが、実は４年生が卒業する前にまだまだやっておきたいことがあるようです。次号で早々にご報告できれば幸いです。どうぞご期待ください。

編集スタッフ：文化経済学科４年　権田ゼミナール
市橋 舞紀　伊藤 雄大　杉田 有紀奈　角田 充宏　廣田 悠利
本間 陸斗　吉越 耀　和田 渚佐
文化経済学科３年　権田ゼミナール
飯島 康貴　池嶋 菜央　狩野 泰輔　黒岩 氷華　後藤 麗玖